

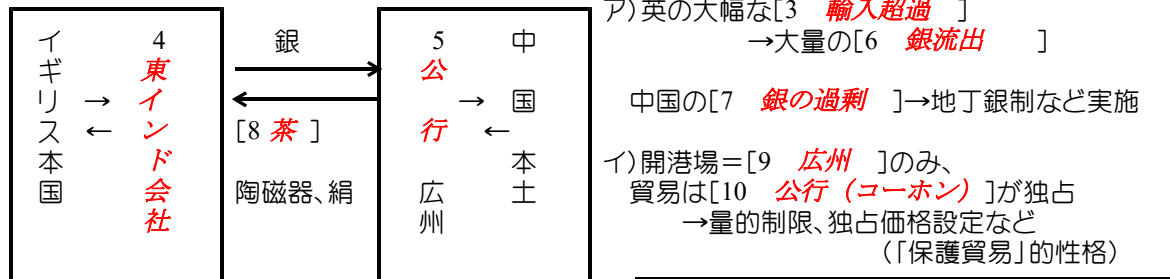
### 第13章アジアの近代 1.東アジアの激動 a.清朝の動揺とアヘン戦争

①清朝の衰退…人口増(1億数千万→3億)へ、土地不足による貧困化、開墾による環境破壊→社会不安へ

18世紀末、四川などの新開地で[1 白蓮教徒]の乱発生(10年以上つづく)

②産業革命前の中国貿易→ 2 清の輸出超過による英の銀が中国に大量に流出

#### 産業革命前の中国貿易



③産業革命→[11 製品輸出先を求める] (→[12 自由貿易]の実施)と貿易収支の改善を求める  
1793[13 マカートニー]、1816 アマーストの派遣→失敗

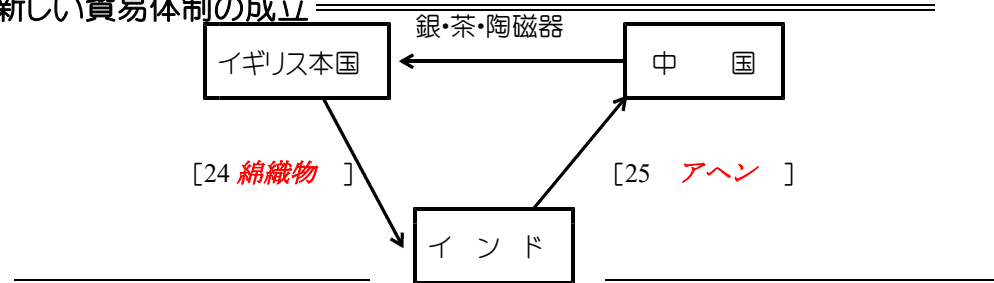
当時のヨーロッパでは、[14 茶]をはじめとした東洋の物資への欲求がはやく輸出超過となり、大量の[15 銀]が中国へ流入していた。したがってイギリスなどにとって貿易収支の改善は大きな課題であった。とくに18世紀後半、イギリスで[16 産業革命]が発生するとイギリスは貿易収支の改善と[17 自由]貿易による貿易拡大をもとめ、1793年[18 マカートニー]、1816年にはアマーストが、中国に派遣されたが、成果を得ることができなかった。

④イギリス…19世紀初より[19 アヘン]貿易を開始  
→ 1834[20] ]の中国貿易独占権を廃止=貿易商人の中国への殺到

ア) 中国の貿易収支の悪化=中国の[21 銀]の流出 →[22 経済の混乱]→民衆の生活困難、反乱など

イ)[23 アヘン]の害の深刻化 →貧民、満人官僚・軍人など

#### 新しい貿易体制の成立



⑤ 1839 清政府、[26] ]を廣州へ派遣→強硬なアヘン貿易の取締を行う。

イギリスとの間で[27] ]勃発([28] ]~ 1842)

⑥ 1842 [29 南京条約]締結=5港の開港・[30 自由]貿易の強要などの不平等条約 (→翌年、補助条約([31 虎門寨]条約)を締結

米([32 望厦]条約)と仏([33 黄埔]条約)とも同様の条約を締結

#### 南京条約の内容

- 1)[34 香港島]の割譲 2)上海・寧波・福州・廈門・廣州の[35 5港]の開港
- 3)[36 公行]の廃止 4)賠償金支払 (以上、本条約)
- 5)[37 領事裁判権]を承認 6)[38 関税自主権]を失う 7)[39 最恵国待遇]を承認 (以上、虎門寨条約)

19世紀になるとイギリス商人のなかにはインド産の[40 アヘン]を密貿易を扱うものがふえ、1834年、イギリス[41 東インド]会社の中国独占権が廃止されると、多くのイギリス商人たちが中国に殺到した。アヘン貿易が活発化、深刻な社会問題となった。また[42 銀流出]をひきおこし経済的にも大問題となった。

このことを重視した清政府は欽差大臣[43 林則徐]を廣東に派遣、アヘン貿易の取締りを強化したが、反発したイギリスは軍を派遣、[44 1840]年アヘン戦争が発生、イギリスが勝利した。その結果、1842年[45 南京]条約、つづいて翌年には補助条約として[46 虎門寨]条約が締結され、清は[47 香港]島の割譲や5港の開港などを含む[48 不平等]な内容を強制された。またこれにつづき、清国はアメリカと[49 望厦]条約を、フランスと[50 黄埔]条約を締結、中国は不平等条約を押しつけられる形で世界の経済にいっそう深く組み込まれることとなった。

#### b.アロー戦争とロシアの進出

⑤自由貿易の強要→貿易の伸展は少ない=英の産業資本家らの不満→条約改定をねらう

⑥ 1856 [51 アロー号]事件を口実に[52 フランス]とともに[53 アロー]戦争を起こす  
→ 1860 北京占領(離宮[54 円明園]を破壊)

カスティリオーネ(仏宣教師)設計

⑦ 1858 天津条約 1860[55 ペキン]条約を締結

- 1)公使の[56 ペキン]駐在 2)[57 天津]など11港開港
- 3)イギリスへの[58 九竜市街]の割譲 4)[59 キリスト教布教]の自由承認
- 5)外国人の中国国内旅行の自由 6)アヘン貿易公認
- 7)条約の仲介を行った[60 ロシア]への沿海州割譲など

南京条約の締結にもかかわらず、貿易額が伸びないことに不満をもったイギリスは、清が[61 天津]で苦しんでいるのに乗じて、1856年の[51 アロー号]事件をきっかけに[62 フランス]もまきこみアロー戦争(1856 ~ 60)をおこして清を破り、1858年天津条約、1860年[63 ペキン]条約をおしつけた。

---

③ロシア

極東への進出を強化

1858 アイグン条約、1860[64 **ペキン**]条約＝沿海州など獲得

[65 **シベリア**]鉄道の敷設(フランスの協力)